

システム等の問題にふれていく以外に方法はないであろう。技術移転には、これらの問題がすべて含まれるというのが LEICESTER 氏の考えであった。ともあれ、発展途上国の現状を材料規格、建築の技術規準、法規等にわたって調べていくことが重要であるとされ、いくつかの課題を整理し、担当者を決定した。

最後に問題とされたのは、活動資金の件で ITTO をはじめ UNIDO, IUFRO などに LEICESTER 氏がコンタクトをとっていくことになった。そして、第3回の会議を1989年8月27日にニュージーランドのオークランド市で開催することを決め、ここでは、活動資金に対する提案と、南アフリカ、南アメリカ、東南アジア等地域性を考えた問題の整理を行うことになった。1992年の秋には、より大規模な会議を持つことも決められている。

(引用・参考文献) 1) Z. BERHANE : The use of solid and split wood in the construction of traditional shelters in Ethiopia, paper presented at CIB-W 18 B, 1988 2) 1989 Compendium of CIB Working Commissions, CIB Publication 108, 1989 3) Proceedings of the first conference CIB-W 18 B : Tropical and hardwood timber structures. Singapore, 1987

## 新刊紹介

◎熱帯におけるアグロフォレスリー・システム (P.K.R. NAIR : Agroforestry Systems in the Tropics, 664 pp., 1989, Kluwer Academic Publishers, ¥ 30,000)

本書は現在世界的に評価されているアグロフォレストリー (以下 AF と略す) について集大成した近著である。編者 NAIR 博士はケニア・ナイロビの AF 研究国際協議会 (ICRAF) に属し、現在アメリカ合衆国フロリダ大学林学部の AF 教授である。氏は AF の定義を、今までに述べられた 13 氏のそれについて ICRAF 内部討議によって総括されたものを、次のように紹介している。「AF は土地利用方式と産業技術を集合した名称で、それは木本多年生植物 (高木・低木・ヤシ・竹など) が、農作物及び、あるいは、動物と同一土地管理単位に、空間配置あるいは時間系列のある形態において慎重に用いられるものである。AF 方式においては、各種の構成要素間で生態的及び経済的相互作用の双方がある (LUNDGREN and RAIN TREE 1982)。」

しかし、その具体的地域体系は自然環境、生物特性及び社会経済によって千差万別であり、氏はこれについて次のように整理している。

第1部：緒言。1. AF の歴史、2. 定義された AF。第2部：AF 方式調査一覧。3. ICRAF の AF 方式目録作成計画、4. AF の分類、5. AF 方式、実践及び科学技術、6. AF 方式の生態的範囲。そして、顕著な AF 方式について、第3部でアジア-太平洋の 13 例、第4部でアフリカの 7 例、第5部で南米の 5 例を詳しく紹介している。これをうけて、第6部で AF の生産的・保護的役割を、第7部で AF の発達状態 (水準) を解説している。総括して、本書によって AF 方式の分類と生態的分析及び技術革新の顕著な情報を知ることができる。(坂口 勝美)